

令和2年度第2回岡山県自立支援協議会医療的ケア児等支援部会議事概要（要旨）

- 1 日時 令和3年3月19日（金）
- 2 場所 ピュアリティまきび2階「千鳥」
- 3 時間 15:00～17:00
- 4 参加者 委員19名中14名出席、オブザーバーとして5市の担当者が出席
※欠席5名：宮木委員、横山委員、中村委員（特別支援教育課）、
國富委員（健康推進課）、桑原委員（子ども未来課）
※代理出席3名：特別支援教育課：本井総括副参事、健康推進課：平田総括参事
子ども未来課：渡辺総括参事
※オブザーバー：岡山市・堤課長補佐、倉敷市・草原主任、
津山市・竹内主任保健師、新見市・吉田臨床心理士兼主事、
備前市・楨野係長

5 協議・報告

●県及び各市における医療的ケア児等支援の取組について

①コーディネーターについて

- ・（委員）市町村を越えたアドバイザーやコーディネーターなどを県として配置する必要があるのではないか。「協議の場」でも役立つと思う。
- ・（市）県で体制ができて連携がとれたらと思う。
- ・（市）まわりの状況を知っているコーディネーターがいてくれると助かる。
- ・（市）事例のあるところの情報をいただきたい。
- ・（県）県全体をカバーできるアドバイザーのような人について配置を検討したい。

②協議の場について

- ・（県）協議の場ができていないのは、どのようなところがネックになっているのか。
- ・（市）医療関係の人というところで、どのような人を呼んでいいのか苦心している。
- ・（県）協議の場が前に行かないのは何が原因か。
- ・（市）誰が対象者かもわからない状態で、専門家に入ってもらっても深い話までにならない。
- ・（県）県としては協議の場の働きかけをしてきたが、協議の場ができていないところがある。どのような悩みを抱えているのか、地域により様々な事情の違いもあると思うので、それぞれの状態に合わせて支援していきたい。
- ・（委員）各市町村よって事情も違うが、協議の場で具体的に何を協議していくのかを示してはどうか。いずれにしても医療的ケアに携わる現場の人が入らないと話ができないと思う。
- ・（県）協議の場ができていないところは働きかけをしていき、協議の場ができたところには、話しあうテーマの例などについて提示をしていきたい。

③レスパイトについて

- ・（委員）保護者がコロナになったときに、子どものショートステイがどうなるのかという心配事がある。
- ・（委員）家族がコロナでなくても、感染予防の条件を満たさなければ、短期入所を断るケースもある。1回目の緊急事態宣言中は受け付けていなかったが、少しずつ条件付きで再開している。

- ・(委員) コロナの陽性での入院は、小児科はしっかり受入をしている。入院が必要な方は、困ることにはならない。濃厚接触者については、県のサポートをいただきながら検討していくことにしている。
- ・(県) 陽性者については医療で対応する。濃厚接触者については詰められていない。その人に一番よい形で提供できるよう、協力しながらやっていきたい。
- ・(委員) 陰圧室の量も限られているので、陰圧テントの利用についても検討していただければと思う。
- ・(委員) 岡山市は在宅レスパイトの研究をしているそうだが、可能であれば、レスパイトをする施設に訪問看護が行けるような形を考えてはいかがか。
- ・(委員) 医療保険による訪問看護は90分までで、30分追加が可能となる場合もあるが、高山市のような訪問看護の長時間訪問のしくみが必要だと思う。
- ・(委員) 各市の協議の場にも訪問看護の方にも声をかけてもらえたらと思う。
- ・(県) 市町村によって事情が違うので、地域ごとにその状況を踏まえて一緒に話をしていくのが大切。

④その他

- ・(委員) 看護協会では、県の委託事業で岡山県看護職員出向・交流研修事業を実施し、小児訪問看護に関する病院と在宅の交流もある。
- ・(委員) 歯科医師会として健康推進課の委託事業を受けている。摂食研修事業で、3年前から取り組んでいる。要望があれば、歯科医師会まで連絡をください。
- ・(委員) 災害時に支援が必要な方と連携をとって、災害時に犠牲者が出ないように検討してほしい。